能登半島地震及び豪雨災害からの復興支援教育プロジェクト

能登スクール in Paris 実施報告書

2026 年 11 月

石川県立輪島高等学校
教諭 岡本 夕佳

能登スクール in Paris
事業報告書

１．趣旨

石川県立輪島高等学校は、2024 年１月に発生した能登半島地震、及び同年９月に発生した豪雨災害で多大な影響を受けました。輪島市を含む奥能登地域の被害は甚大で、いまだに復旧の段階を抜け出せていない状況です。

石川県立輪島高等学校では、これらの災害からの復興は、未来の能登を創る子供たちの声で進めたいと考え、総合的な探究の時間を活用して、生徒が街の復興を考え探究的に学びを進める「街プロ（街づくりプロジェクト)」の他、能登の生徒や教師が、学校の外、被災地の外、そして海外ともつながりながら、教育を通した創造的な復興を目指ざす「能登スクール」を、日本 OECD 共同研究（OECD 教育スキル局、東京学芸大学）とも連携しながら、2024 年８月から推進しています。

石川県立輪島高等学校と同じく奥能登地域にある飯田高等学校もこの「能登スクール」に参加し、輪島高校とともに、「半島の最先端から、世界の最先端を目指す」教育創りを進めています。これは今後さらに少子高齢化に直面する日本各地の過疎地域にとって、先行事例となる革新的な取り組みです。

この輪島高校、飯田高校から、生徒 6 名、教員 3 名が 2026 年 1 月にパリを訪問し、OECD の知見から他国の復興について学ぶ機会をつくりました。また OECD 教育スキル局シュライヒャー局長を表敬訪問する機会に、シュライヒャー局長とともに、能登半島地震被災地の高校生の実体験に基づく声を、オンライン・ワークショップで届け、「未来を築く学び」とは何かを、広く参加者と共に考える場を共創しました。このワークショップは、笹川日仏財団様からのご協力を得て、NHK の取材も入り、より多くの皆様に、能登の高校生の声を届けることができました。

またこのパリ訪問中には、これまでにホームステイを含めて生徒同士が交流を続けてきた、フランスの現地校サンジョセフ校の生徒たちも交えて、パリのマルシェを訪問し、輪島の朝市の復興に向けて、参加者が話し合うワークショップを開催しました。加えて、メゾンエオブジェに輪島塗の皆様が出展されるタイミングでもあり、ジェトロの皆様の協力も得て、日本文化、日本の産業の普及に向けて、世界の見方、考え方を学ぶ機会を創出しました。

２．概要

２．１現地でのプログラム：

日にち	内容
1 月 15 日	パリ着
1 月 16 日 午前	於 OECD ブーローニュオフィス OECD 教育スキル局シュライヒャー局長表敬訪問、及び OECD 日本政府代表部と面談 世界の中の日本と未来の教育について意見交換を行った。 「日本 OECD 共同研究月間・キックオフ特別セッション（別紙参照）」に登壇し、能登半島地震被災地からの高校生による実体験に基づく声を発信。日本と OECD による共同研究月間の開幕にあたり、 OECD 教育スキル局アンドレアス・シュライヒャー局長によるオープニングトークと能登半島地震被災地の高校生の声も交えながら、「未来を築く学び」とは何かを参加者と共に考える場を共創した。 
1 月 16 日 午後	於 OECD ラミュエット城本部 OECD 東北スクール生徒たちが植樹した桜など見学、その後、ジェトロ職員と面談 「世界に売り込む日本文化・産業」のレクチャーを受ける。 
1 月 16 日 夕方	サンジョセフ校から教師・生徒とともに、アクリマタシオン庭園日本灯りイベントに参加。 海外から見た日本の見え方を体感した。

	
1 月 17 日	1/16 の振り返り ２班に分かれてサイトビジットを行う。 （マーケティング班） ・海外から見た日本とは？「日本の商品を海外で売るにはどうしたらよいか？」 パリ市内セレクトショップなど訪問 1/19 のメゾンエオブジェ訪問に向けて現地ショップのマーケティングを学んだ  （マカロン班） ・マカロンづくり 現地のご家庭の協力のもと、マカロンづくりを行った。探究活動にて「地元の食材を使ったマカロンの開発」を目標に活動している生徒を中心にマカロンづくり実習を通し、商品開発の材料を集めた。 （合流） ２班のそれぞれの活動を振り返り共有を行った
1 月 18 日	マルシェ訪問＋Lunch@ブローニュ ビアンクール https://imacocoro.com/paris-marche/ サンジョセフ校の生徒さんたちと交流・意見交換、輪島塗・輪島の朝市の紹介

	・フランスと日本の教科書を見比べながら、教科の視点や学び方の違いについて意見交換をした。 ・マルシェビアンクールにおいてサンジョセフ校の生徒さんたちの通訳のもと、現地のマルシェの在り方や地元客との関係性を学び、輪島の朝市の再興に向けて知見を広めた  
1月19日	メゾンエオブジェ訪問、輪島塗出展者（田谷漆器店）と意見交換 ・伝統産業である輪島塗をどのように海外に売り出すかについて意見交換を行った。伝統と革新をかけあわせた新商品の紹介を受け、商品開発の視点を得た。 ・田谷漆器店以外の日本からの出展者と意見交換をし、日本製品を海外で売ることについて課題と可能性を知った。  
1月20日	午前中：サンジョセフ校訪問 ・英語の授業に参加し、輪島/珠洲の紹介を行った。日本とフランスで言語は違うが、両国で英語の学び方に違いがあるのか学校文化の違いを知った。  ・校庭や校舎見学を通しフランスと日本の違いと共通点を学んだ。サンジョセフ校との次の交流に向けて文化の違いを知った。  午後：空港に移動、パリ発
1月21日	日本着

２．２　報告会



①2026 年 2 月 4 日飯田高校の探究発表会の中で、全校生徒・教職員に向けた報告を行った。その際、輪島高校の渡仏組生徒・教師も発表者として参加し、学校の壁を超えた活動報告となった。

②2026 年 2 月 12 日 石川県庁にて馳知事への表敬訪問を実施



輪島高校及び飯田高校の生徒･教員にて知事への表敬訪問を行った。OECD での活動や現地校のサンジョセフ校との交流について報告をした。馳知事からは OECD との関係もあり、OECD での経験や輪島高校と飯田高校での共同研修の形であったことを中心に質問をもらった。この 2 校での共同研修が今後は奥能登 5 校に波及させていくことや、今回得た知見を高校生として･教員としてどのように復興に寄与していくかという視点で励ましをもらった。（知事表敬の様子）

③2026 年 2 月 13 日 輪島高校での報告会（全校生徒対象）を実施

輪島高校で行われた石川県商業生徒発表会にて全校生徒・教職員及び他商業高校（4 校）からの参加者に向けた報告と発表を行った。飯田高校からはオンラインにて生徒・教師が参加し、商業生徒発表会に合わせて現地で学んだマーケティング、震災からの復興に高校生としてどのように寄与できるか、について報告をした。（輪島高校での報告会の様子）





④2026 年 3 月 29 日 日本 OECD 共同研究月間クロージングワークショップ

日本 OECD 共同研究月間クロージングワークショップにて能登スクールとしてのフランス訪問を含めたこれまでの活動を通して意見を述べた。

３．成果

生徒からは、下記のようなコメントが報告されました。（抜粋）

- メゾンエオブジェでは、輪島塗を広めようと思ったのがすごいと思った。復興に向けてやる気がでた。パリのセレクトショップで、海外で売られているものを観察できた。日本の良さを最大限出していける活動をしたい。
- マカロンも作らせてもらい、日本の作り方とは違っていることに驚いた。珠洲の塩を使ったマカロンサレも考えていきたい。5日間、色々な人とコミュニケーションをとって関係を築けた。人脈を大事につないで、未来につなげていきたい。
- 実際に体験・体感ができたのがよかった（現地での価値）。メゾンエオブジェで会った人たちは芯（＝アンカー）があると思った。自分もそうなりたい。たくさん恩を受けたので、恩おくりをしていきたい。忙しいを言い訳にしないでやっていきたい。

教師からは、以下の振り返りが出されました。

- 学びが２つあり、①リスクのある中で挑戦することが大事だと思った。②色々な人に会うことも、自分の成長に大事だと思った。社会の中で、教科につながるものがたくさんあることにも気がついた。
- 前回のパリ訪問も含めて、生徒たちは本当に変化をしている。まいてきた種をカタチにしていきたい。

OECDからは、「hopeful（希望にあふれている）と、resilience/resilient（しなやかな強さ）をOECDに持ってきてくれた。今回の訪問は、 政策的にも大事だと思った。どこの地域でも、高校１校単体でやっていくことは難しい。町でそだてる高校の先行事例になるのではないか。輪島キャンパス、飯田キャンパスのように、学校を超えて友達ができるとうれしいと生徒たちも感じている。」とコメントをいただきました。

尚、サンジョセフ校と輪島高校、飯田高校のつながりは、この後も継続しており、2026年7月にはサンジョセフ校の生徒教員が能登地域を訪問しました。能登町立柳田中学校も交えて、「おさんぽしながら教科のメガネで日常の風景を観る」試みを実施し、サンジョセフ校の生徒からは、「能登の自然が本当に美しかった。映画の様だった」という感想もあり、能登の生徒にとっては、外から見える視点に気づくことにより、自分たちの地域の価値」に気づく機会になりました。（ご参考：記事）。

今後も日仏の草の根の懸け橋として、両国の文化交流、学びあいを通して、よりよい未来創りに尽力して参ります。

以上

謝辞

本事業は、笹川日仏財団様のご支援で実施できました。御礼と共に、日本とフランスの文化理解をはかり、懸け橋となる子供たちを、今後も育てていきたいと思います。

また、プログラムの内容は、OECD 教育スキル局のご支援も得て、2040 年の未来のデザインにつながる、充実したものになりました。OECD 教育スキル局の田熊美保様はじめ Education2040 チームの皆様、OECD 日本政府代表部佐藤悠樹様、また田熊様からのお声がけで、日本の商品を海外にどう売るのかの視野を広げてくださった JETRO 山田尚徳様、田熊様のご関係者の皆様、そして私たちを暖かく迎えて下さり、フランスの今を紹介くださったサンジョセフ校島内理恵子先生並びに生徒さんたちに、厚く御礼申し上げます。

（参考）

・1/16 報告記事
日本 OECD 共同研究月間 キックオフ特別セッションを開催しました！ – 日本 OECD 共同研究

・1/17 NHK ニュース
“世界に伝える” 能登半島地震の被災地高校生 仏で意見発表 | NHK ニュース